



平成 21 年 2 月 10 日

各 位

会 社 名 中央化学株式会社  
代 表 者 名 代表取締役社長 渡 辺 信  
(J A S D A Q ・ コード 7 8 9 5)

問 合 せ 先 専務取締役管理本部長 永 田 修  
役職・氏名

電 話 0 4 8 - 5 4 0 - 2 6 2 4

特別損失の計上及び平成 20 年 12 月期通期(連結・個別)業績予想の修正  
並びに配当予想の修正に関するお知らせ

当社の平成 20 年 12 月期決算において、下記の通り特別損失が発生致しますので、その概要をお知らせするとともに、平成 21 年 2 月 10 日開催の取締役会において、平成 20 年 8 月 20 日付「平成 20 年 12 月期中間決算短信」にて発表いたしました平成 20 年 12 月期(平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日)通期の業績予想並びに配当予想について、下記の通り修正することを決議いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失の発生およびその内容

1) 固定資産減損損失

当社グループでは、管理会計上の事業所区分を資産グルーピングの単位として減損損失の必要性を判断しておりますが、北京オリンピック後の中国における景気減速と世界的な景気悪化などの状況から、北京雁栖中央化学有限公司の保有する有形固定資産について、将来キャッシュフローの見積額が当該資産簿価を下回ると予測されるため回収可能額まで減額し、連結財務諸表上 7 億円の固定資産減損損失を計上することと致しました。

2) 貸倒引当金繰入

平成 12 年に当時連結子会社であった Paper Plus 社を売却致しましたが、売却代金の回収残金(2,625 千ドル=約 239 百万円)について、昨今の米国経済の急激な冷え込みを受け、回収が困難であると判断し、その全額について貸倒引当金を計上することと致しました。

また、当社グループがおこなってきました不動産開発投資事業に関し、平成 15 年中間期において 7 5 億円の貸倒引当金を計上致しましたが、当該事業に係る貸付債権の回収見込の一部を構成する担保株式について、昨今の株価低迷により回収見込額が減少したため 2 億円の引当追加をすることと致しました。

2. 業績予想の修正

(1)平成 20 年 12 月期連結 通期業績予想 (平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日)

(単位：百万円)

|   | 売 上 高   | 営 業 利 益 | 経 常 利 益 | 当 期 純 利 益 |
|---|---------|---------|---------|-----------|
| 前 回 発 表 予 想 ( A )<br>(平成 20 年 8 月 20 日発表) | 90,000  | △ 1,600 | △ 2,000 | △ 5,000   |
| 今 回 予 想 ( B )                             | 83,824  | △ 2,157 | △ 3,490 | △ 7,177   |
| 増 減 額 ( B - A )                           | △ 6,176 | △ 557   | △ 1,490 | △ 2,177   |
| 増 減 率 (%)                                 | △ 6.9%  | —       | —       | —         |
| 前 期 (平成 19 年 12 月期)実績                     | 88,703  | △ 2,462 | △ 2,702 | △ 6,297   |

## (2)平成 20 年 12 月期個別 通期業績予想 (平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日)

(単位：百万円)

|                                    | 売上高     | 営業利益    | 経常利益    | 当期純利益   |
|------------------------------------|---------|---------|---------|---------|
| 前回発表予想 (A)<br>(平成 20 年 8 月 20 日発表) | 71,000  | △ 1,800 | △ 2,000 | △ 5,600 |
| 今回予想 (B)                           | 68,594  | △ 2,088 | △ 2,788 | △ 9,488 |
| 増減額 (B - A)                        | △ 2,406 | △ 288   | △ 788   | △ 3,888 |
| 増減率 (%)                            | △ 3.4%  | —       | —       | —       |
| 前期(平成 19 年 12 月期)実績                | 69,105  | △ 2,467 | △ 2,580 | △ 7,232 |

## (3)修正の理由

## ①個別

国内(個別)においては、原材料価格高騰による収益の悪化を改善すべく、製品価格の値上げや不採算取引の是正・縮小、製品の薄肉化や軽量化による原材料費削減、役員報酬の一部カットや管理職給与の一部削減、従業員諸手当見直しなどの人件費削減等を実施致しました。一方、製品在庫等に係る保管コストを軽減すべく、滞留在庫等の来期以降における販売可能性を厳しく吟味した結果、第 4 四半期において、これらの処分・廃棄を決定し、これによる処分損・評価損約 4 億円を売上原価に計上(前回発表では見込まず)した結果、営業利益は予想を 3 億円下回る見込みとなりました。なお、売上については不採算取引の縮小をすすめた結果、前回予想を 2 4 億円下回る見込みです。

経常利益については、上記在庫処理約 4 億円に加え、第 4 四半期において、急激な円高により外貨建債権等の評価差損(為替差損)が予想対比約 4 億円増加したため、予想を 8 億円下回る事となりました。

当期純利益につきましては、上記在庫処理と為替差損増加に加え、中国子会社に対する出資投資の時価である中国子会社の純資産価値の減少(前述の北京雁栖中央化学有限公司の固定資産減損損失ならびに業績不振子会社の損失や、急激な円高による中国子会社純資産の円換算額の目減りなど)により、当該出資投資に係る損失引当をあらたに 3 3 億円追加計上したことや不動産開発投資事業に係る貸倒引当金を 2 億円追加引当したことなどから、当初予想の当期純損失 5 6 億円に対し、損失が 3 9 億円拡大し、9 5 億円の当期純損失となる見込みです。

## ②連結

売上高につきましては、個別における 2 4 億円の減少に加え、米ドル安・中国元安により在外子会社売上の円換算額が約 3 1 億円減少したことなどにより、前回予想を約 6 2 億円下回る見込みです。

営業利益については、個別における在庫処理約 4 億円のほか、米国子会社における原材料価格高騰分の製品価格への転嫁時期のずれ(製品販売価格の更改時期は平成 2 1 年上期の予定)が約 4 億円発生したことなどから、当初予想に対し 6 億円悪化する見込みです。

経常利益につきましては、営業利益の悪化に加え個別に記載しました為替差損の増加約 4 億円のほか、中国子会社においても前回発表時の為替差額予想と比べ約 4. 5 億円悪化したことなどから、前回発表予想に対し計 1 5 億円悪化する見込みです。

当期純利益につきましては、上記経常損益の悪化 1 5 億円のほかに、北京雁栖中央化学有限公司の固定資産減損損失 7 億円や貸倒引当金繰入 4 億円などの発生により、前回発表予想から 2 2 億円悪化する見込みです。

### 3. 配当予想の修正

#### (1) 配当予想修正の理由

当期は1株当たり、中間10円・期末10円、計20円の配当を予想しておりましたが、上述の通り多額の当期純損失を計上する見込みとなりましたので、誠に遺憾ではございますが、期末配当につきましては、見送りとさせて頂きたく存じます。

#### (2) 修正の内容

| 基 準 日                     | 1株当たり配当金(円) |       |       |
|---------------------------|-------------|-------|-------|
|                           | 中間期末        | 期末    | 年間    |
| 前 回 予 想<br>(平成20年8月20日発表) | 10.00       | 10.00 | 20.00 |
| 今 回 修 正 予 想               | 10.00       | 0.00  | 10.00 |
| 前期(平成19年12月期)実績           | 10.00       | 10.00 | 20.00 |

### 4. その他

以上の通り、原材料価格高騰分を吸収すべく、製品価格の値上げや不採算取引の是正・縮小、製品の薄肉化や軽量化による原材料費削減、役員報酬の一部カットや管理職給与の一部削減、従業員諸手当見直しなどの人件費削減等を実施し、第4四半期に漸くその効果が数値となって現れて来ております。この効果を更に拡大すべく全社一丸となって収益改善に取り組んで参ります。

参考) 為替差額要因等を除いた各四半期別収益の推移

(単位：百万円)

|                         | 第1四半期 | 第2四半期 | 第3四半期   | 第4四半期   |
|-------------------------|-------|-------|---------|---------|
| 連結経常利益・・・①              | △ 857 | △ 413 | △ 1,019 | △ 1,201 |
| 為替差額・・・②                | △ 232 | 449   | 35      | △ 1,025 |
| 在庫処理・・・③                | —     | —     | —       | △ 400   |
| 為替差額・在庫処理を除く経常損益(①-②-③) | △ 625 | △ 862 | △ 1,054 | 224     |

以 上